

令和5年6月定例記者会見要旨

開催日時 令和5年6月26日（月）午前10時30分 302会議室

（総務部長）皆さんこんにちは。いつもありがとうございます。ただいまより、6月の定例記者会見を開会いたします。よろしくお願いいたします。

（市長）皆さんこんにちは。記者クラブの皆さんには本当に熱心にいつも取材をいただきありがとうございます。梅雨で蒸し暑さが増してきました。西の方から梅雨明けのニュースも聞こえてきておりますが、暑い夏になってくるかと思いますので、皆さんもご自愛いただき、今後とも引き続きよろしくお願いいたします。

7月のスケジュールをベースに説明させていただきたいと思います。7月1日は「TOYOTA SOCIAL FES 2023」ということで、毎年TOYOTAの「AQUA」という環境に対するメッセージの強い商品を核に、諏訪湖のヒシ取りや諏訪湖学習等理解を深める活動をしていただいています。今年はすわっこランドを基軸に、TOYOTAさんの主催、信濃毎日新聞社さんとの共催ということで実施します。諏訪地域以外からも多くのボランティアの皆さんに参加いただき、今年もヒシ取りの作業をしていただくことになっております。平成25年度からほぼ毎年開催しており、今までのヒシ取りの実績は、累計で268.5㎡、54.19t、参加人数1,332人となっております。本当にいろいろな方に諏訪湖を応援していただいていることを大変ありがたく思っております。

諏訪湖に関わることでは「諏訪湖DEウォーク」、コロナに際して少し工夫をして新しい形でスタートしましたが、昨年の改善点を含め、今年度は7月3日から申し込みを受け付け、実施期間が9月1日から10月31日までの2ヶ月間ということになります。参加人数を今年は定員を500名にさせていただきました。参加費は無料です。前半と後半で1ヶ月毎に記録用紙を提出していただきますが、1ヶ月目の結果を提出していただいた方には、「クッキー」引換券（原田泰治美術館で引換可能）と「原田泰治美術館」の入館券を差し上げます。2ヶ月目の1ヶ月間の結果を提出していただくと、「すわっこランド」入館券を自宅へ郵送させていただきます。1ヶ月目と2ヶ月目の両方とも記録用紙を提出していただいた方には、「諏訪の味噌」の引換券（間欠泉センターで11月末まで引換可能）をお渡しします。イベントの本旨である諏訪湖畔を歩いて健康増進する習慣を身につけていただくことを重視し、申し込みだけではなく、実績をあげた方々にプレゼントを用意するという形にしました。申し込みは、開庁日に本庁3階の地域戦略・男女共同参画課へ直接お申し込み、ながの電子申請サービスのQRコード、メールをする三つの方法になります。電話とFAXはお受けしないということです。結構人気のイベントとお聞きしていますので、ぜひ多くの皆様からのお申し込みをお待ちしております。

同じく7月3日から諏訪湖祭湖上花火大会の有料栈敷席券の一般抽選販売がスタートいたします。期間は3日から10日まで、抽選は7月13日で、当選につきましては8月4日から順次行方券の発送をもってお知らせとなります。7月3日の午前0時から「チケットぴあ」にて申込受付を開始します。「マス席」は特別マス席、一般マス席、一般ハーフマス席（新企画）。

「ブロック指定席」は約1,200席。「石彫公園エリア指定席」でエリア指定をするのは初めてとなりますが、S席、A席、B席、C席の4種類に分けて抽選の対象となりました。「湖畔公園エリア指定席」は約1,950席になりますが、この中には車椅子専用スペースもございます。「カメラマン席」は石彫公園の後方に20席。「車いす席」は石彫公園に10席と湖畔公園の10席。これらの席の抽選がスタートしますので、ぜひ積極的に申し込みをしてみてください。市民枠の再トライも含めて1万枚となり、総数で2万枚となります。また、駐車

場予約アプリ「akippa」も同日から受け付け開始となります。今回の駐車場はすべて予約制になります。自宅など持っている敷地の中で、駐車場に貸し出してもいいという皆さんの申し込みも現在受け付けておりますので、ぜひご案内いただけたらと思います。

6月からすでにスタートしております市内道路等工事予定箇所の現地視察を、7月6日と14日に実施します。この間は雨の中で役員の皆さんにはご苦労いただきましたが、実際水が溜まって困る状況等、雨の中でこそ現場をよく見れるということもあり、現地視察の大事さを実感いたしました。

7月15日の午前11時から第56回藤原咲平先生をしのぶ会を開催します。昨年までコロナ対応で縮小しておりましたが、ご親族の方をお招きして霧ヶ峰の先生の記念碑の前で、いつもの形に戻して開催いたします。藤原咲平先生は諏訪市角間新田のご出身で、気象学や地球物理学などに功績を残され、この地域ではお天気博士と言われている先生です。第5代の中央気象台長をされたり、ドイツから視察をして日本で初めて霧ヶ峰でグライダーを飛ばし、日本グライダー発祥の地が霧ヶ峰になった根源となる活動をされた先生です。

第44回諏訪よいてこが7月22日に開催となります。参加連は前回よりも少し少ないですが、現在22連/約850名の参加となっています（前回第40回の実績：34連/約1,400名）。踊るエリアも縮小の予定ですが、参加される皆さんには大いに元気を出して楽しんでいただきたいと思います。スタート時刻はメインステージが15時15分スタート、姉妹都市物産展やバザー、こども広場、路上演舞等、大いに夏祭りを楽しんでいただきたいと思います。

諏訪湖温泉旅館組合が諏訪観光協会と連携をして行う「諏訪湖サマーナイト花火」の開催日程が決定してまいりました。7月28日から8月27日まで、8月15日を除く30日間、毎晩20時30分からおよそ10分間、音楽とシンクロした約500発の花火を打ち上げる予定であります。花火は最大5号玉、水上スターマインはありませんが、毎日近くで見る諏訪湖の花火をお楽しみいただけるものと思っております。

その他、過日諏訪市消防団ポンプ操法大会を行いました。7月2日に第65回諏訪地区消防ポンプ操法大会・第50回諏訪地区消防ラップ吹奏大会が行われ、23日には第65回長野県消防ポンプ操法大会・第32回長野県消防ラップ吹奏大会が長野市で行われる予定となっております。消防団は防災に一番欠かせない市長直属の民間の大事な組織であります。災害対応ということで3日には諏訪市防災会議・国民保護協議会を開催します。7月には私も5日ほど日帰りの出張がございます。13日に諏訪湖流域治水促進期成同盟会があり、その結果を持ちながら26日には諏訪郡市国道20号改修・バイパス建設促進期成同盟会、諏訪湖流域治水促進期成同盟会、諏訪湖流域下水道促進協議会についても併せて国土交通省や関東地方整備局等へ要望活動に行く予定でございます。また、ここで改選が行われ、一部事務組合でも議会構成の臨時議会が開催されます。5日に湖周行政事務組合、20日に諏訪広域連合、24日に諏訪広域公立大学事務組合の臨時会が行われることとなっております。29日には台東区隅田川花火大会が開催されます。台東区は友好都市となっておりますが、私自身久しぶりに隅田川の花火大会に伺って、いろいろなところの皆さんがどんな工夫をされているか交流をしたいと思っております。

お手元に配布いたしました「小丸山古墳出土品」の資料について、小丸山古墳^{そうがん}象嵌の細工のある大刀の^{たち}鏢、これは前回保存活用して公開いたしました。その大刀が出てまいりました。この山奥の田舎にこうした貴重なお宝、副葬品を持った古墳があることは地域のロマンであり、クラウドファンディングのご協力もいただき保存活用してまいりました。その大刀の保存処理が終わったということで公開になります。諏訪市博物館二階のすわ大昔ミニギャラリーで7月1日から30日まで行っておりますので、ぜひ皆さんにもご覧いただき、文化財を保存すること

の目的や意義、成果などを知っていただきたいと思います。目標は100万円でしたが、43件84万円のご寄附をいただき、こうした地道な活動においてたくさんの皆さんのご理解とご協力をいただいたことを大変感謝をしております。

美術館では企画展「And Again」を7月22日から9月24日まで諏訪市美術館の展示室で開催します。これは平成25年度から学校連携事業として行ってまいりました、諏訪市内の小・中・高校生と連携で、この6市町村出身や在住、諏訪の地域性に興味を持っていただいている作家の皆さんと一緒にいろいろな取り組みをしてくださっています。8組の作家の皆さんにご貢献いただき、こどもたちも素晴らしい成果を上げてきましたが、その4名の作家さんの現在の活動を紹介する美術展になります。作家さんは常田泰由先生、源馬菜穂先生、小川格先生、松本春崇先生の4名です。7月21日の午後4時から、マスコミの皆さん向けの内覧会で作家の皆さんがご来場されますので、直接その経験や作品に関するコメントなど取材をいただけましたら、より皆さんへの理解を深めていただけるのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。その他、教育委員会関係は各所でイベントの企画をしておりますので、ぜひ行事予定を確認いただきながら取材していただけたらと思います。

今年の夏は特に暑い印象を持っておりますが、暑さに負けずに乗り越えてまいりたいと思いますので、記者の皆様も体力をしっかりとつけていただいて、ご一緒によろしく願いいたします。

記者との質疑応答

○議会議案の文化センターの保存活用及び改修に関する基本設計費用について

(記者) 修正動議に関しての受け止めは。

(市長) 同じ統一地方選挙で、市民の皆さんから直接、選挙で洗礼を受けた15人の市議会議員の代表者の皆さん、私も二元代表制の一翼ということで、皆さんから信任をいただいて市長に就任させていただいております。この二元代表制双方の代表をお互いに尊重すべきものと思っておりますので、議会のご判断については尊重してまいりたいと思っております。しかしその前に、十分にご理解いただく努力が不足していたかもしれないという反省を持ち、全市民の代表者の議員の皆さんにより理解を深めていただくため、議決をする最後まで全庁を挙げてご理解をいただけるための最善の努力を続けてほしいと、副市長、教育長、そして部局長を通じてお願いしているところであります。最後までおわかりいただけるようにというのは、私たちが8年かけて練ってくる中で、今考えられる最善の方策をお出ししていますので、できるだけ深く理解していただけるように最後まで努力いたします。

(記者) 一体的整備計画の3事業をスタートさせた背景で強調する部分は。

(市長) 皆さんのお力をいただき、ここで50年ぶりに国道20号バイパスが再スタートを切ることができました。駅関連では、この半世紀以上をかけて複線化や連続立体交差について検討し、駅をどうするか、本当に重要な課題を抱えています。文化センターは60年が経過したコンクリートづくりであり、これをどう保存・活用していくのか、非常に重要な判断を迫られるものであります。私が就任した時にすでに文化財の指定を受けて、保存・活用していく方向性は示されており、これに対してやはり相当の費用もかかることから、市民の皆さまのお考えを聞きたいということで、有識者会議にて少しブレーキをかけた経過もあります。もう8年かけて熟慮してきた課題であり、東バルの跡地についても、市が取得して20年経過する中でご承知の通り紆余曲折がありました。その中で一期目に基本構想を作り、二期目に基本計画にシフトし、そしてこれから整備計画として落とし込みながら順次見直しを作りながら進めていこうということです。市長選を目前にして当初予算に盛らないというのは市民に対する礼儀であ

り、これから誰を首長にするかという選択をする段階で、前任の市長がこれを決定し予算を決めてしまうということに対しては、遠慮すべきという意味で準備しておりました。ご審議をいただいてから、補正予算で政策的なものを計上するという約束でマニフェストに提示し、段取りをしてきたつもりであります。申し上げる通り、長年抱えてきた非常に大きな課題ですが、これをそのまま先送りしていくことが未来の市民の皆さんにより重い課題を残していくというようなことであることに、今決断すべき責任者として、勇気を持って一步踏み出そうと考えました。そしてその費用は文化庁だけの支援であとは自治体だけでやることについて、他の補助メニューはないかなど模索しました。ちょうどコンパクトシティの計画を持ち、立地適正化計画を進めていく中で、そうした都市機能の誘導区域の中の一部と位置付けることによって、国土交通省等の支援を組み入れるという設計にして、今考えられる最良の案としてお示ししたつもりです。28億という金額を全部諏訪市が背負うのではないかという思いのある方もおられたり、また、市議会議員の皆さんの選挙公約の中に28億という金額はいかがなものかとコメントを出されたり、経過についても理解されてご提示いただいたわけでありまして。議員の皆さんがどのような理由で、どのような思いで、どういう決断をされるかということも聞き取らなくてはなりませんので、そこはこれから結論が見えてくる中で私たちも知る必要があると思っております。また皆さんからも情報があったら教えていただきたいと思います。いずれにしても、議会と首長は車の両輪で、結論や決定事項に対して双方同等に市民あるいは諏訪市行政の最良の選択を選び取っていかなければならない立場であることを理解して、信頼関係を持って結論を生み出していけるように最後まで努力したいと思っています。

(記者) 仮に修正動議が可決した場合に、今後の計画は。

(市長) 議会の思いをしっかりと聞き取りながら、どのようにしていくかはその時点でまた相談していきたいと思っております。

(記者) 再議を求める考えはないということか。

(市長) 28日の本会議の決定については議会の決断なので、それを無視して何かできる立場ではありませんということを申し上げました。

○上諏訪駅周辺の一体的な整備計画について

(記者) 3月議会の段階で発表する選択肢はなかったのか。

(市長) 一体的とは3つの事業を一気にやるというのではなく、都市機能誘導区域の中に位置付けられた重要な都市機能誘導ファンクションとしての3ヶ所について、段階を踏みながら一体的な諏訪市のリフォーム計画の視野に入れるという意味の一体的です。一番最初に着手できるのは文化センターで、準備が整って独自の仕事としてやらなければならない。駅や諏訪湖イベントひろばになると、地質の調査が必要であったり土地の形状についての課題があり、準備の段階に少し時間が必要です。そうしたことを並行しながら準備を進めていくという計画になっています。同時に進める中で、基本設計に着手する一番最初が文化センターになるということです。3月の時点ではまだ内容を詰めている段階で、国や県の方へ要請を出したり返事をもったりする準備をしている過程でありましたので、3月議会にお示しする段階には至っていませんでした。

(記者) 28日の議決がどちらになっても、一体的整備の計画は今後も進めていきたいということか。

(市長) 諏訪湖イベントひろばや駅の西口に関してはやるべきことがあり、継続的に行っておりますので、予定通り進めていきます。文化センターも議会でも判断されるかわかりませんが、議会としてもその後についてのご意向がおそらく同時に示されるものと思っていますので、お考えを伺いながら頑張っていきたいと思っています。

○湖周のごみの最終処分場について

（記者）辰野町とどのように進めていくか。

（市長）湖周行政事務組合としましても、諏訪市で最終処分場を用意することを合意し、その場所をどうするかを長年にかけて各地区の皆さんや候補になった箇所を選別していく過程において、関わっていただいた多くの皆さんと検討を積み上げてきた場所ですので、その相当の理由も必要ではないかと思います。下流の皆さんの思いも大事ですので、建設が前提ではなく、まずは調査をさせていただくことで理解をいただき、結果を共有していただく段階であります。いろいろな方々が結果について共有され、どのように解釈するかということもこれからやることあるだろうと思います。理解を深めていく手続きの渦中にありますので、丁寧に進めていかなければいけない案件だと思っています。

（副市長）経過については議会で私が説明した通りです。これからの方向性についても今市長が申し上げた通りですが、隣町の行政との関係ですので、これまで通りさらに丁寧に話を続けていきたいということを補足させていただきます。

（総務部長）以上をもちまして、6月の定例記者会見を閉会します。どうもありがとうございました。